

【開会】

○事務局

開会宣言

【区長あいさつ】

- ・ こんばんは。北区長の松本です。
- ・ 日頃から、京都市政並びに北区政の推進に御理解、御協力を賜り、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。
- ・ 北区のまちづくり計画であるが、平成23年度から10年間の計画として定めた「北区基本計画～はつらつ北区プラン～」については、策定から5年を迎え、プランに掲げる施策・事業の全てに着手したことから、今日的な課題である「人口減少社会への対応」や「地域コミュニティの弱体化」などについて議論を重ね、今後5年間のまちづくりの指針として「北区民つながるプログラム」を本年3月に策定した。
- ・ 京都市においても京都市基本計画である「はばたけ未来へ！京プラン」の未来像実現のため、「まち・ひと・しごと・こころ京都創生」総合戦略を策定し、人口減少問題を「自分ごと」、「みんなごと」としてとらえ、行政、地域、様々な団体の皆様が連携して取組を進めているところである。
- ・ 詳細は後ほど説明申し上げますが、北区においても人口減少、少子高齢化の傾向は顕著である。今後、「北区民つながるプログラム」を皆様方と一緒にしっかりと推進していきたい。
- ・ 本日は、どうか最後までよろしく願います。

【議事】

○事務局

それでは本日の会議を始める。今回は委員改選後、最初の会議である。
座長の志藤先生から順に所属団体名とお名前をお願いします。

(各委員、事務局自己紹介)

ありがとうございます。会議の進行については、本会議の座長である志藤先生をお願いします。志藤先生、よろしく願います。

○志藤座長

それでは、お手元の次第に従い、議事を進行する。議題（１）北区民つながるプログラムの目標達成について、「ア これまでの経過及び本会議の役割」、「イ 人口及び自治会加入率の現状」の２件まとめて、事務局から説明をお願いします。

○事務局

<資料（２）～（６）に基づき説明>

○志藤座長

昨年度策定された、「北区民つながるプログラム」において、自治会加入については、京都市平均を１０％上回る８０％という高い目標を掲げ、また人口統計において、年々、人口が減少し、少子高齢化が加速的に進む中、人口減少に歯止めをかけるといった、チャレンジする覚悟で我々は臨もうとしている。

ただ、全てが厳しいばかりではなく、社会動態が微増しており、この場の出席者には保育園関係者や不動産業者といった社会動態に関係する方々から、より具体的な知恵をいただけたらと思う。

それではただいまの事務局からの説明について、質問や意見など、お願いします。

（質疑応答なし）

○志藤座長

今回は最初の会議とういことで、漠然とした問題意識を皆さん既にお持ちとは思いますが、現状の表、数値を見ていただき、具体的な課題を共有していただけた。

それでは、続いて、議題（１）－ウ「北区役所の平成 28 年度の主な取組」について事務局から説明をお願いします。

○事務局

<資料（７）に基づき説明>

○志藤座長

ただいまの事務局からの説明について、質問や意見など、お願いします。

○委員

資料（７）北区の主な取組について、幼児、子供向けは盛り込まれているが、中高生、あるいは 20 歳前後の大学に行っていない若者を対象とした取組が見受けられないように思う。

例えば、（京都市全体でやっている成人式を）学区単位の成人式などが出来ないかと考え

ている。

区役所が直接実行しなくても、取組のきっかけとなるようなヒントをいただけたら学区や各種団体において実行できる可能性がある。

○委員

少子高齢化について、結婚したくても出来ない、子供を産みたくても産めない、相手の収入が少ないと結婚出来ないという新聞記事を見た。このような根本的な問題を解決しなければならない。戦争を経験された皆様の努力により今日の日本経済の発展があるが、それらの人に年金を払うのすら危ぶまれている。経済そのものの課題にも目を向けなければならない。

また、先ほど話の挙がっていた地域で成人式を行うことにより、小学校、中学校といった自身の育った地域に対する愛着が沸き、地域の活性化につながると思う。現在、上賀茂学区では柘野学区と合同で成人式を行っており、40～50人参加者がいる。

○事務局

中高生、若者はまちづくりの主体と考えている。昨年度は、つながるワークショップにおいて、中学生に、北区に残して行きたいものについて議論いただき、その成果を「北区民つながるプログラム」の表紙に掲載している。彼らは地域をよく観ており、今年度も継続してつながるワークショップにおいて議論を行っていただく。ワークショップの開催にあたり、青少年活動センター、いきいき市民活動センター、社会福祉協議会、区役所が一体となって、若者を中心とした皆さんにまちづくりの議論を行っていただき、彼ら自身のまちづくり活動のきっかけとなるようつなげていきたい。

経済問題について話があったが、北区は交通至便、自然環境豊かにもかかわらず人口が減っている。

区役所だけで問題を解決するのは難しく、学区単位での成人式のアイデアなど、地域からの積極的なアドバイスをいただき、大きな目標ではあるが人口減少に歯止めをかけるため、この会議のテーマとして提案させていただいた。

○委員

資料(7)北区の主な取組について、健全者を対象としているものの記載が中心となっているように見受けられる。人口減少とは直接関係ないが北区の掲げる「つながる」というキーワードもあるよう、地域コミュニティとしても障害のある方と一緒に取組について意識する必要があるのではないか。

○事務局

精神保健をお持ちのについては、こころのケアまちネットワークの活動において、スポーツ大会等を通じて交流に取り組んでおられる。

精神障害を抱えた方自身が、各学区において直接生い立ち等を語ることにより、交流の輪が広がっている。

また3月には、青少年活動センターが学生スタッフと協働で「北こみフェスタ」において学生、障害者の相互交流が図られた。

障害のある方としっかりつながっていくことが住みやすいまちへとつながっていく。資料には直接的な事業を掲載させていただいたが、いただいた意見を踏まえて修正させていただく。

○委員

つながるワークショップについては、中学生を対象としているが、大將軍学区の中学生は、中京区に通学しているので、北区以外に通学している中学生も参加できるよう配慮いただきたい。

また、我が家は二世帯住宅であるが、周りは親と同居（もしくは近所に住んでいる）している家庭が少ないように思う。昨今は、共働きも多いことから、親と同居するメリットはあると思うので、みんなが一緒に暮らしやすいまちになるとよい。

加入率の低下について、自治会費の使い道にあいまいな部分がある。自治会によって額の違いがあり、負担となっていることが若い世代からの声として挙がっている。もう少し、目的毎に、使い道が明確になれば、町内会の加入促進に資するのではと考えている。

○委員

二点ある。自治会加入率について、大学に通う下宿生の加入率は把握されているのか教えていただきたい。また、自治会内部においても、下宿生の加入について何らかの取組をされているケースがあれば紹介していただきたい。

また先ほど、学区での成人式の話があったが、地域の中高生が地元に着愛をもっていたら、まちづくりの主役となってもらうことが大切と考えている。私は、京都府北部で、中高生のキャリア教育に携わっている。中高生が主体となってまち歩きイベントを行っているが、彼ら主体で引っ張っているのを見ていて、あなどれないなと思った。中高生が地元において、成功体験をすることで将来のまちづくりの担い手になると思う。

つながるワークショップに携わっていた立場として、人材輩出の場となっている。つながるワークショップの参加者が、現在福島でまちづくりを行っているという例もあり、まちづくり活動の入口となっていると感じた。

○委員

学区まちづくりビジョンについて、現在までに4学区、今年度は2学区策定予定となっているのはどこか。

また策定にあたり、学生の関わり方、地域とつながる方法はどのようになっているのか。過去の4学区の事例があれば教えてほしい。私自身も大学に関わっている身として協力出来ればと考えている。

○委員

人口減少については、非婚晩婚による低い出生率が原因として言われている。また、人口を維持するための合計特殊出生率として 2.07 が必要と言われている。京都府では、結婚から出産、子育てまで、切れ目のない支援を行なうことが推進されているが、非婚晩婚を抑制するためには、結婚に繋がる出会いのきっかけからサポートする仕組みが必要といえる。

人口の増加には、社会動態によるものも考えられるが、東京一極集中に象徴されるように、社会動態に頼ると周辺地域での過疎を促進することにもなるので、均衡ある発展のためには、自前で出生率を上げることが大切といえる。婚活においては、例えば、男性の多い職場と女性の多い職場で、繋がりを持つなどの取り組みなどが行なわれており、北区としても進めていく必要がある。

自治会の加入率の向上については、加入の方法が分かりにくいことも背景にある。公称の町名と町内会の名前が異なっていることもあり、また、エリアも異なるので、転入してきた際に、どこに連絡していいかが分からないことがある。私が自治連合会の役員をしていた際には、加入の仕方の分からない転入者に対して、どこの町内会に該当するかを複数の町会長に話を調整し、加入してもらうことを行なっていた。転入される方も頼めばほとんどの方が加入されるが、そのような加入者の対応に手が回っていないのが実情である。町内の高齢化で円滑な活動ができない町内もあり、加入促進の活動が出来にくいところもある。NPO の中には、町内会の運営をサポートするものもあると聞いている。そのような NPO を活用することも検討が必要といえる。加入促進に係る人手不足は大きな問題であり、加入しやすい仕組みの検討が必要といえる。

○志藤座長

いただいた意見は今後、部会で掘り下げて議論していただくと共に、出来る限り実現できるようにしていきたい。

また、資料（7）に掲げられているのは主な事業ということであり、意見を集約して必要な修正を行っていただくこととする。

さらに、この場で回答が必要な項目について事務局から回答をお願いしたい。

○事務局

複数の区にまたがって、中学生が通学している場合でも、ワークショップへの参加が出来るよう、PTA と区長の懇親会の場合等を活用して検討していく。

学生の自治会加入率については、把握出来ていない。しかしながら、佛教大学の学生が消防団に加入している、京都産業大学の学生が柘野の安心安全活動に参加するなどの取組が進められており、学生が地域において様々な機会に活躍している。

学区ビジョンについて平成 28 年度は紫竹学区、待鳳学区において策定を考えている。策定済みの柘野は京都産業大学、北山三学区ビジョンについては、区役所と地元で策定した。

学生の自治会加入率について、町内会の加入調査結果にあるよう、学生マンションはそもそも自治会に加入していないことを想定している。

やはり自治会加入率が低い問題について、自治会費が要因の一つと考えている。ある学区

において学生のシェアハウスをやられるということで、その際、学生は試行的に自治会費を無料にという話もあった。まず学生に自治会に加入してもらう必要があると考えている。

○志藤座長

それでは、本議題につきましては、事務局からの説明とおりで決定とさせていただきたいと思う。

よろしければ、拍手をお願いします。

<拍手>

ありがとうございました。それでは、議題（２）「部会の設置」について、事務局から説明をお願いします。

○事務局

<資料（８）に基づき説明>

部会長の指名については区長から説明させていただく。

○松本区長

- ・ 部会長の指名について、説明させていただく。
- ・ 要綱第6条の3号に基づき、部会長は副座長から指名することとされているため、地域コミュニティ賑わい部会については、副座長である関谷先生に就任いただきたいと思いますと考えている。
- ・ ひと・まち活性化部会については、昨年度まで、本市総合企画局が実施していた「未来の京都創造研究事業」の委員として、市政の重要課題に携わっていただいていた京都産業大学の藤野先生に就任いただきたいと思いますと考えている。
- ・ なお、藤野先生におかれては、本日、大学における急用により欠席されているが、事前に部会長就任の了解をいただいている。
- ・ なお、地域コミュニティの活性化と人口減少対策については、明確に切り離せるものではなく、車の両輪ともいえるべき関係にあると考えている。そのため、先生方に限らず、委員の皆様におかれては、大変お忙しいとは思いますが、できる限り、他の部会にも出席していただき、幅広い視点から議論に加わっていただきたいと思いますと考えている。

○志藤座長

ただいま事務局から説明があったとおり、大きく3点ある。

- ① 部会の設置
- ② 各委員の皆様による部会への所属
- ③ 部会長の指名

の3点ですが、まず、部会を設置するということに関しまして、質問や意見など、お願いします。

次に、各委員の皆様に、いずれかの部会に所属していただくこととなるので、どちらかを選んでいただきたい。決められたら、挙手のうえ、部会名をお答えいただきたい。

○委員

それぞれの部会がどういったテーマになるのか、もう少し具体的に教えてほしい。

○事務局

ひとまち活性化部会は、人口減少社会の対策を主眼、地域コミュニティ賑わい部会については自治会加入率の増加をテーマとしている。

また、プログラムに掲げられている18のプロジェクトそのものを部会のテーマとするのではなく、それぞれの部会が担当する内容を考えるヒントとなればと考えている。

○志藤座長

12ページの目標に書かれている二つの目標を実行するために18のプログラムがある。

今回はそれぞれの目標（人口減少に歯止めをかける、自治会加入率の向上）を達成するための部会である。それでは、希望する部会を最低一回挙手していただきたい。

(挙手による部会名の回答)

ありがとうございます。それでは、部会の委員については、ただいまのとおりとさせていただきます。

なお、本日御欠席の委員の方々におかれましては、後日、事務局の方から委員の方のご意向を聞いておいていただく。

次に、3点目、部会長の指名ですが、この件について、質問や意見など、お願いします。

(質疑応答なし)

それでは、本議題の3点については、原案どおりで決定とさせていただきます。よろしければ、拍手をお願いします。

<拍手>

ありがとうございます。

それでは、新たに部会長に就任されました関谷先生に、一言ご挨拶をお願いします。

<関谷副座長あいさつ>

○志藤座長

ありがとうございました。それでは、今後、部会長を中心に、各部会において、議論を深めていただきたいと思います。また、活発な議論を行うためには、幅広い立場の方々の様々なご意見を頂きたいので、自分の所属しない部会においても、事務局から案内状を送付してもらうので、御都合のつく限り、積極的に参加していただくよう、お願いします。

本日の議題の検討は以上である。その他、事務局から報告事項はあるか。

○事務局

<「参議院議員通常選挙のお知らせ」について報告あり>

○志藤座長

ただいまの事務局からの報告について、質問や意見など、お願いします。

(質疑応答なし)

その他、会議全般について、何か意見などはあるか？

(質疑応答なし)

これで本日予定されていた議題はすべて終了した。委員の皆さま、活発で有意義な御意見ありがとうございました。それでは、事務局にお返しする。

○事務局

志藤先生、ありがとうございました。

本日設置していただきました部会において、今後、更なる議論を深めていきたいと考えている。委員の皆様のお力添えを、どうかよろしくをお願いします。本日はこれで終了とする。長時間に渡り、最後までありがとうございました。

<以上>